



◎本ニュースレターは、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信するものです◎

過ごしやすい秋の季節、流域ではさまざまな環境系イベントが開催されており、事務局ではそのいくつかに参加してきましたので、本号でご紹介します。そして、この木曽三川流域エコネット応援団初の交流会も開催できました。ほんの少しになりますが、交流会のようすをご報告しますので、当日の熱気を感じてください。

お知らせ

希少魚イタセンバラを見て・学んで、保全について考える会の参加者募集です ～木曽川水系イタセンバラ保護協議会～「第9回 イタセンバラの勉強会」

■日時：平成30年12月15日（土）13:30～15:30（受付13:00～）
■場所：世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ 多目的ホール（岐阜県各務原市川島笠田町1453）
※勉強会は参加費無料。水族館入館料は別途（参加者に限り、勉強会終了後の入館料が20%引きとなります）。

■参加方法等：要事前申込み／申込締切12月11日（火）／定員50名

※E-mail・FAX・郵送（申込書へ返送できる往復はがき）のいずれかの方法で、「①参加人数（大人・中学生以下）／②代表者連絡先（氏名、住所、電話・FAX・E-mail アドレスのいずれか）／③勉強会後の水族館入場希望の有無／④イタセンバラ保護へのご意見」を、次の申込先まで連絡してください。

■申込先：イタセンバラ勉強会開催事務局（株式会社建設環境研究所）〒460-0003 名古屋市中区錦 3-20-27 御幸ビル 5F
/ itasenpara@kensetsukankyo.co.jp / FAX.052-218-0667

※行事案内チラシや参加申込書は国土交通省中部地方整備局ホームページ（11月記者発表資料）<<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisyu/2018/11.htm>> からご覧になれます。

●木曽三川流域お魚コラム vol.2 「ため池で出会える黄金の女神さま」

女神さまと言えば、森の奥の泉から現れたり、空から降りてきたりするイメージがありますが、濃尾平野では、なんと「ため池」で女神さまに出会うことができます。その名も「Golden venus chub（英名：ゴールデン・ビーナス・チャブ。直訳すると黄金の女神の小魚）。和名はカワバタモロコという、コイ科の小さな魚です。体長3～5cmほど、緑がかった背中に金色のライン、お腹は白く、ポテツとした体形をしています。名前にもゴールデンと冠するとおり、繁殖期（5～7月）になると、オスは黄金色の婚姻色を発し、ため池の中でキラキラと輝きます。（「黄金の女神」なのに、黄金色になるのはオスだけです。）

カワバタモロコは、平野部やちょっと山へ入った里山環境のため池や小さな水路に生息します。せっかくキレイな見た目の、水草の茂みや水面に木陰がかかるような薄暗い環境を好むようです。繁殖時には、メス1匹をオス複数匹が追い回す「追尾行動」とり、水草の茂みなどに産卵します。産まれた卵の表面はネバツとしており、水草などにくっついて、ふ化までの時間を過ごします。繁殖期に水そうで観察してみたところ、追尾行動をとるのは夜明けから午前中のうちに偏っているようです。そして午後になると、なんということでしょう、産まれたばかりの卵をみんなでモリモリ食べ始めてしまいます。。

このように、カワバタモロコの繁殖には、卵のベッドとして、さらには外敵（親魚も含めて）から身を隠すため、よく茂った水草や入り組んだ植物の根などが必要です。しかし近年、水路やため池のコンクリート護岸化などによって、水草の茂る場所が少なくなっています。また、外来種のブルーギルに食べられたり、アメリカザリガニに水草を刈られてしまったり、カワバタモロコを取り巻く環境は厳しく、このままでは濃尾地域の女神さまが伝説になってしまう恐れもあります。残された生息池に「女神の池」と名づけたら、パワースポットとして人気が出て、保全活動が盛り上がりたらないでしょうか。。



カワバタモロコ
愛知県 RL：絶滅危惧IB 類
岐阜県 RL：絶滅危惧I 類



木曽三川流域エコネット応援団
facebook はじめました！

<https://www.facebook.com/kisosanseneconet/>



ニュース情報を募集しています！

木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会では、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報をニュースレターにまとめて発信しており、生物多様性の保全や生きものを活用した地域づくりなど、流域のフレッシュな情報を募集しています。下記お問い合わせ先まで情報をお寄せください。（なお、紙面の都合等で取材・掲載できない場合もありますこと、予めご了承ください。）



木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会（事務局：国土交通省木曽川上流河川事務所）とは、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の自治体・河川管理者・有識者によって、平成26年度に設立されました。

本協議会では、木曽三川流域において、自然環境を保全・再生・創出してつなげる「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う（または賛同する）、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曽三川流域エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有等を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指していきます。

「木曽三川流域生態系ネットワーク」ホームページ（<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojoyo/econet/index.html>）



木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会事務局：国土交通省 木曽川上流河川事務所 河川環境課（岐阜県岐阜市忠節町5-1）
【問い合わせ先（H30事務局窓口）】 cbr-kisojoyo@mlit.go.jp / tel 058-251-1321 / fax 058-251-4301

■2018年11月10日（土）〔岐阜県岐阜市 サンレイラ岐阜〕 熱気ある研究発表と、人と人がつながる和やかな意見交換の場となりました ～木曽三川流域エコネット応援団が集うはじめての交流会「第1回 エコネットカフェ」～

木曽三川流域で自然環境の保全等に取り組む皆さんをつなぐことで、流域生態系ネットワーク形成を推進しようと結成した「木曽三川流域エコネット応援団（以下、応援団）」は現在、64の民間団体・教育・行政機関等に参加いただいています。いつもは、このニュースレターや Facebook ページを介したつながりですが、今回の交流会「愛称：エコネットカフェ」は、応援団の皆さんに一堂に集まっていただき、情報共有・意見交換をしつつ、親睦を深めようという初めての試みです。「誰も来てくれなかったらどうしよう」という事務局の心配は杞憂で、約50名と多くの方にお越しいただき、あっという間の3時間、ときに熱く、ときに笑い声があがる親密な空間を皆さんと共有できました。

愛知県・岐阜県各地からの活動発表は、木曽川高校総合実務部、岐阜高校自然科学部生物班、大垣東高校理数科ハリヨ班、加賀野名水保存会（以上、発表順）と、イタセンバラ、ハリヨ、カスミサンショウウオの保全に係る調査・研究、広報・教育の取り組みなど、どれもとても専門的（カルタづくりGISや統計解析・個体識別等）で、「とても真似できそうにない。すごいね」といった感想が挙がっていました。ハリヨに関してはクイズや紙芝居まで披露していただいて、とても楽しかったです。

後半は5つのテーブルに分かれ、グループディスカッション形式で交流を図りました。席替えタイムも設けて、30分×2回のディスカッションを行いました。どのテーブルも盛り上がり、時間が足りないという声が多く聞かれました（ごめんなさい！）。各テーブルから聞こえてきた話題は、「ハリヨは個体別に顔つきが違っていてなんとなくわかる。イケメンのハリヨは女子に人気」などの活動に関する楽しいプチ情報、「揖斐川下流のハマグリが美味しい・きれいな水と山々からなる景色が好き」などの木曽三川の良いところ、「活動の人手が足りない・相談できる人を紹介してほしい」、「川で遊ぶ人が増えるといいな・地酒にハリヨやネコギキの名前を付けてはどうか」といった日ごろのお悩みや今後の展望のほか、専門的な相談やアドバイスなども、多岐にわたりました。

武田協議会長からは「この取り組みの核は、人と人とをむすんでいくこと。その成果として地域がうるおい、それがさらに地域の人びとが環境保全を行う基金となっていくといった仕組みにつながるとよい。今後の発展に期待したい」といった総括コメントをいただきました。

この成果を、今後の人と人のネットワークづくりにいかしていきたいと思っています。参加してくださった方も、都合がつかずにお会いできなかった方も、ご協力ほんとうにありがとうございました！



活動発表はそれぞれ濃密な内容でびくびくしました
他県の情報もきめて共有できたのもよかったようです



一息つき、誰かと議論している人が多いという、にぎやかな休憩中の一コマです



グループディスカッションは、どのテーブルもマニアックな話し合いに発展していたようです（調査・解析手法の相談なども）

■2018年10月25・26日（木・金）〔岐阜県大垣市 スイトピアセンター〕

「トゲウオ」を守る人々が各地から集結「トゲウオシンポジウム in おおがき」が開催されました

大垣市市制100周年記念イベントの一環として、市の魚ハリヨ制定10周年を記念した「トゲウオシンポジウム in おおがき」が2日間にわたり開催されました。1日目はポスター展示、シンポジウムが開催され、会場となった大垣市スイトピアセンターには約220名の参加者が集まりました。ポスター展示では、トゲウオの保全活動を行う人びとが、地元で生息するトゲウオの紹介や保全活動の成果を報告していました。シンポジウムでは、小北准教授（福井県立大学）による基調講演と国崎さん（世界淡水魚園水族館 アクア・トト ぎふ）、杉川副館長（イトヨの里）、横幕さん（池田町教育委員会）、堀先生（大垣東高校）による事例発表がありました。

小北准教授は、トゲウオは生物多様性研究のスーパーモデル、地域の郷土財であるというお話をされました。小北准教授によると、トゲウオのなかまでであるイトヨ属は、ほんの少しの遺伝情報の違いが見た目や行動の変化につながるそうです。なかでもハリヨは、岐阜県と滋賀県という隣り合った生息地の間においても、遺伝子の違いに基づく行動の違いがみられるとのこと。したがって、各地域集団をそれぞれの自然環境のなかで保全していくことが大切である、とお話しされました。

国崎さんはアクア・トトぎふでのトゲウオ飼育・展示についてお話をされました。アクア・トトぎふでの観察を通して、地域の財産であるハリヨの生態を知ってもらうこと、そのためにハリヨの展示を絶やさないことがアクア・トトぎふの重要な役割であるとお話しされました。

杉川副館長はイトヨの里での活動についてお話をされました。小学生対象の観察会や社会科見学の受け入れによる普及啓発等のイトヨの保全活動を通し、SDGsの目標達成やその先の取り組みについても進めたいとお話しされました。

横幕課長は池田町での半世紀にわたるハリヨ保全活動についてお話しされました。池田町のハリヨ保全は上八幡地区の住民の皆さんが行っており、地域住民の熱を原動力に、行政・研究者の三者が連携する形で取り組んでいることが、半世紀もの長い間、継続して活動できた要因ではないかとお話しされました。

堀先生は海津市清水池でのハリヨの調査研究についてお話しされました。今年度は清水池内のハリヨの水路間の移動状況を知るため、ハリヨの体のもようを利用した追跡調査を実施したそうです。その結果、わずかではあるものの、清水池内での水路間の移動が確認できたと報告されました。

最後に森教授（岐阜経済大学）による総評があり、郷土財を守るために地域住民、研究者、行政が交流する仕組みをつくり、保全を文化に昇華させたいとお話しされました。

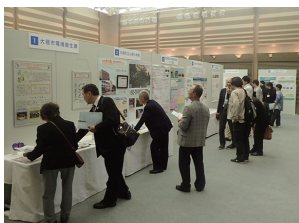
2日目はハリヨ生息地を巡る「現地視察」が実施され、20名程度の参加者が集まりました。現地視察では、岐阜経済大学ハリヨパーク、曽根城公園、加賀野八幡神社を訪問しました。現地では、ハリヨの繁殖行動も確認でき、参加者の皆さんはうれしそうに見守っているようでした。



現地視察会のようす。現地ではハリヨの繁殖行動も確認できました



会場のようす。大勢の参加がありました



ポスター展示でにぎわう会場



ポスター会場ではハリヨの展示も行われました

■2018年11月11日（日）〔岐阜県岐阜市 ぎふメディアコスモス〕

環境問題を身近に感じ・取り組む“きっかけ”を提供する

「第17回岐阜市まるごと環境フェア」が開催されました

「みんなでかんがえてみよう！かんきょう都市」を開催テーマとし、市民の環境意識の高揚と保全活動の実践によって、環境に対して負荷の少ない健全で持続可能な社会構築の確立に向けた市民参加型のイベントである「第17回岐阜市まるごと環境フェア」が開催されました。会場となったぎふメディアコスモスは約8,000人の参加者で賑っていました。

イベントでは、企業や市民団体による展示や、さまざまな体験ができるブースがありました。体験ブースでは、親子で楽しそうにソーラーカーを工作する姿や、牛乳パックを利用して作った竹とんぼで遊ぶ姿がみられました。自転車漕いで発電することでゲームができる「子ども人力発電遊園地」は子供たちに特に人気があり、行列ができることもありました。

また、自然エネルギーによる地域再生をテーマとした映画の上映、お笑い芸人によるバイオマスをネタにしたステージ「おもしろ環境ゼミナール」など、工夫を凝らした催しがありました。おもしろ環境ゼミナールでは、地球温暖化に関するクイズも行われ、笑い声が会場に響いていました。また、展示ブースでは、木曽三川流域エコネット応援団の取り組みやハリヨ・イタセンバラに関するポスターも出展させていただきました。

イベントの最後には、小・中学生が環境についての行動目標を発表する「子ども環境宣言2018」が実施され、「地球温暖化の進行を防ぐため、種から樹木を育てる」、「自然を学び、知ってもらうため自然観察を行う」など未来への約束が交わされました。



ポスター展示の状況。会場にはたくさんの人が集まり、エコネット応援団の取り組みや啓発ポスターも見ていただきました。



開会式のようす。大勢の参加がありました



■木曽三川流域エコネット応援団交流会「第1回 エコネットカフェ」参加者の皆さんの感想など

本ニュースレター表紙で紹介した交流会に参加いただいた皆さんの感想（アンケート結果）を、ほんの一部ですが紹介します。これらを踏まえ、できれば次回につなげていきたいと考えています。ディスカッションでは、「長良川の夕日をみんなにも見せたい・川と山々からなる景色が好き・水がきれい」といったおすすめスポットに関する意見も多かったので、現地で皆さんにお会いできる機会もつくれるといいな、と考えています。

●ふだんの発表会とはまた違う自由な雰囲気でお話したいことを話せるような良い会だったと思います。またこのような人脈をつくるきっかけとなる会があるといいと思いました。／●面白い企画だと思いました。／●交流会の形式は新鮮でした。／●面白かったです。高校生がとても考えていて、未来が明るくなりました。／●発表も大変よかったです。第2部の交流でつっこんだ話ができてよかったです。気軽に参加できる会がいいです。今後もお願いします。／●今日のようないろんな方が交流できる会は貴重だと思いました。／●ディスカッション楽しいです！大人・高校生とふだんいろいろなことをしている人と、和気あいあいとしながら、知りたいことについて話し合える場はとても面白いと思う。／●生きものに興味が無い人こそ、こういう活動をしてほしいです。なぜ生きものに興味が無いとかを話し合っていくと、もっとこういう活動に参加したい人が増えると思います。／●後半の交流会の時間がもう少し長いほうがよかったです。／●フリーセッションの時間を増やしてもいいのでは。